

○近年の温暖化に伴う高温障害により、香川県産米の1等米比率は低迷を続けており、高品質米生産による1等米比率の向上が喫緊の課題。

○香川県農業試験場が育成した高温登熟性に優れた水稻新品種「おいでまい」の普及・拡大を図ることにより、高品質米の生産量を確保。

○平成28年産の作付面積1,290ha。

○1等米生産とあわせて栽培技術改善による良食味米生産によりブランド化を推進し、市場評価を向上。平成25・26・28年には「特A」を獲得。

具体的な成果

普及指導員の活動

1 高品質米生産による1等米比率の向上

- 1等米比率が向上(H24→H28)
(全品種5.6%→10.1%)
(おいでまい94.2%→61.1%)
(ヒノヒカリ4.8%→2.1%)

2 「おいでまい」の生産計画に対応した作付推進

- 認定栽培者の増大(29戸、28ha→627戸、470ha)
- 生産量の拡大(140t→6,450t)
- 試験栽培として公募により「おいでまい」栽培者を認定し、試験栽培を実施(H24)
- 一般栽培としての作付推進(H25以降)
- 重点推進地域における作付推進
- 公募による栽培者を認定し、生産計画に対応した作付け
- 平成28年産の作付面積1,290ha

3 「おいでまい」栽培マニュアル等に基づく高品質・良食味米生産

- 「おいでまい栽培マニュアル」を作成
- おいでまい委員会によるブランド化

平成24年

- 「おいでまい」の高品質良食味米生産のための栽培基準策定に向けた実証ほを設置(28ヶ所)。
- おいでまい生産者やJA職員に対する技術研修を実施。
- 重点推進地域及び公募による栽培予定者に対して栽培技術講習会を実施。

平成25年

- 「おいでまい」一般栽培を開始(約1,300戸、660ha)し、栽培技術研修会を開催
- 「おいでまい」の栽培基準の策定と検証のための実証ほを設置(25ヶ所)。
- 生育期間中に栽培管理に関する情報を提供。
- おいでまい生産者やJA職員に対する技術研修を実施

平成26～28年

- 平成25年の取り組みを継続実施。
- 「おいでまい」の生育指標を確認するためのツールを作成

普及指導員だからできたこと

- ・ 農業革新支援専門員が県域レベルで生産者等に対して技術研修を実施し、普及指導員が各地域において技術指導を実施。
- ・ 「おいでまい」の生産、販売、PRを一体的に行う「おいでまい」委員会の生産振興チーム地域部会を普及センターが運営し、JAと連携して栽培者への支援を実施。



おいでまい生産者等に対する研修



「おいでまい」シンボルマーク

香川県

高温登熟性に優れた水稲新品種「おいでまい」の 高品質・良食味米生産

活動期間：平成24年度～平成28年度

1. 取組の背景

近年の温暖化に伴う高温障害により、香川県産米の1等米比率は低迷を続けており、高品質米生産による1等米比率の向上が喫緊の課題であった。

こうした中、香川県農業試験場では高温登熟性に優れた水稲新品種「おいでまい」を育成し、普通期栽培品種として普及・拡大を図ることにより、高品質米の生産を確保することとなった。

新品種「おいでまい」は、普及品種である「ヒノヒカリ」に比べて高温障害による白未熟粒の発生が少なく、粒ぞろいが良いため玄米の外観品質が優れるほか、「ヒノヒカリ」並の極良食味という特徴がある。

一方、短草で倒伏しにくく葉色がやや薄いため、多肥となる懸念があるほか、分けつが旺盛で過繁茂になりやすいこと、強い中干しで根の活力が低下しやすいこと、いもち病に弱いことなどから生産拡大に当たっては、「おいでまい」の良好な品種特性を十分引き出せるような施肥法、栽植密度、水管理、いもち病の防除対策など、総合的な栽培技術の確立・普及が必須であった。

表 「おいでまい」の1等米比率と作付面積の推移

品種	平成24年産	平成26年産	平成28年産
おいでまい	94.2%	74.6%	61.1%
	作付面積	28ha	730ha
ヒノヒカリ	5.3%	23.9%	2.1%

2. 活動内容（詳細）

「おいでまい」の栽培管理技術の確立と普及に当たっては、高品質良食味米生産のための栽培基準策定に向けて、県内4つの普及センターに全県で28か所の実証ほを設置して、農業試験場での試験データをもとに、現地での調査研究を行った。翌年度も引き続き「おいでまい」の栽培基準の策定と検証のための実証ほを全県で25か所に設置し、最適な栽培管理を検証した。

また、こうした実証ほを活用して、おいでまい生産者やJA職員に対する技術研修を実施した。

作付け拡大に当たっては、カントリーエレベータ単位で重点推進地域を設定したほか全県から公募により栽培者を募集し、一定の条件を満たす栽培者を認定し



て、これらの栽培予定者に対して栽培技術講習会を実施した。

平成25年から「おいでまい」の一般栽培を開始して、約1,300戸、660haの栽培者を対象とした技術研修会を開催した。

「おいでまい」の生育期間中には、栽培管理の節目ごとに6回の栽培管理に関する技術情報を提供し、指導者、栽培者に栽培管理の徹底を図った。

現地実証ほの調査研究結果を基にデータを解析して、「おいでまい」の生育指標を確立し、生育診断をするためのツールと栽培マニュアルを作成した。

3. 具体的な成果（詳細）

1 高品質米生産による1等米比率の向上

本県全栽培品種の平均1等米比率は、平成24年産の5.6%から平成28年産では10.1%に向上した。「おいでまい」では同様に94.2%から61.1%に、「ヒノヒカリ」では同様に4.8%から2.1%となった。

2 「おいでまい」の生産計画に対応した作付け推進

カントリーエレベータを除く認定栽培者（県内公募により「おいでまい」栽培者を認定）による試験栽培を実施した平成24年産は試験栽培で29戸、28haであったが、平成25年産から一般栽培を開始し、平成28年産では627戸、470haに増加した。生産量はカントリーエレベータへの出荷分も含めると同様に140tから6,450tに拡大した。

平成28年産の作付面積は合計で1,290haとなった。

3 「おいでまい」栽培マニュアル等に基づく高品質・良食味米生産

実証ほでの調査研究データを基に「おいでまい栽培マニュアル」を作成し、県内の生産者、普及指導員、JA担当者へ配布して栽培技術の徹底を図った。

また、行政部局では生産・流通・販売・マスコミ関係者を構成員とする「おいでまい委員会」を設置して、県内関係者が一丸となったブランド化が図られ、市場評価が向上した。

4 食味ランキング「特A」獲得

平成25年産「おいでまい」は、日本穀物検定協会の「米の食味ランキング」で中四国初となる「特A」ランクを獲得し、続く平成26年産でも「特A」となり、2年連続獲得となった。2年連続の「特A」効果や販売PRなどで一時品薄状態となるなど、県内を中心に需要が増大した。

平成27年産は、登熟期の日照不足と低温により「特A」は逃したが、平成28年産では再び「特A」に返り咲いた。

今後も高い品質を維持しつつ、更なる生産拡大を図っていく。



「おいでまい」シンボルマーク

4. 農家等からの評価・コメント（丸亀市 M氏）

「おいでまい」は農家待望の品種である。1等を取れることは限らない喜びで、「来年もがんばろう！」というモチベーションが湧いてくる。

5. 普及指導員のコメント（香川県農業革新支援センター 農業革新支援専門員 大熊）

農業革新支援専門員が県域レベルで生産者等に対して技術研修を実施し、普及指導員が各地域において技術指導を実施した。「おいでまい」の生産、販売、PRを一体的に行う「おいでまい」委員会の生産振興チーム地域部会を普及センターが運営し、JAと連携して栽培者への支援を実施した。こうした関係者が一丸となって全県を挙げて取り組んだ結果が食味ランキング「特A」の獲得と1等米比率の改善につながった。

6. 現状・今後の展開等

今後も、地域に応じた栽培管理指導の徹底により、実需者が求める高品質で安全・安心な「おいでまい」の生産・販売を進める。

また、最近の異常気象年においても収量・品質を維持するため、土づくりやいもち病対策など、天候に左右されないよう栽培技術の確立・普及指導を行っていく。